

# 令和6年度 北九州市立白野江小学校 学校経営方針

## 1 学校教育目標

一人ひとりが生き生きと輝き、知・徳・体の調和のとれた自律した子どもの育成

～ 自分が好き、友だちが好き、学校が好き、白野江が好きな子ども ～

## 2 めざす子ども像

- ・ やる気いっぱい 伸びようとする子ども（知）
- ・ えがおいっぱい 思いやりのある子ども（徳）
- ・ 元気いっぱい はたらく子ども（体）

<令和4年度めざす子どもの重点> 学ぶことの喜びを感じている子ども

<令和5年度めざす子どもの重点> 学んだことを表現しようとする子ども

<令和6年度めざす子どもの重点> 学ぶ楽しさを感じ主体的に学習に取り組む子ども

## 3 めざす学校像

- ・ 明るく活気にあふれ、児童・教師が安心して生活できる学校
- ・ 児童相互、児童と教師、教師相互が互いに信頼し合い、自己有用感を高めることができる学校
- ・ 清潔で美しく、本や音楽・絵画、緑や花等に囲まれ落ち着いた心の和む学校
- ・ 保護者や地域と連携して、信頼される学校（国型コミュニティースクール）

## 4 学校経営の基本方針

- (1) 全ての児童に学ぶ楽しさやできた喜びを味わわせ、自信と誇りをもたせる。
- (2) 生涯にわたって主体的に学ぶ基礎を養う。家庭学習定着の必要性について積極的に情報提供する。
- (3) 「生きる力」を養うために、「授業改善」努めるとともに、人間性と社会性を伸ばす「心の教育」の創造に努める。
- (4) 読書指導を工夫し子どもたちが読書の魅力に気付き、活字に親しむ態度を育てていく。

## (5) 積極的な生徒指導の推進

- ・ルールやマナーについて、機会を捉えて児童に考えさせ、みんなで決めたことは必ず守らせる。
- ・日常における児童との人間関係の構築に努め、指導においては是は是、非は非の毅然とした態度で望む。
- ・生徒指導上の課題に対して、教職員が一体となって組織的に取り組む。

## 5 本年度の重点目標

- ・確かな学力・健やかな体を育成する。
- ・心の育ちを推進する。 ⇒ 信頼される学校づくり
- ・意欲を高めて子どもの基礎学力を伸ばす。

## 6 目標達成のための具体的方策

- (1) 本年度6月に行う「歯と口の健康づくり」発表会に向け、研修を深めて全職員で取り組むことで、指導方法の工夫・改善を図る。
- (2) 同研修に計画的・組織的に取り組むことで、児童の基本的な生活習慣の向上を目指す。
- (3) 朝の1分間表現タイム、「多層指導モデルMIM」「コグトレ」の活用、チャレンジタイム等の充実を図る。
- (4) 学校図書館職員を活用した読書への興味・関心を高める取組を充実させ、チャレンジタイム、読書週間等を通して、読書習慣の定着を図る。
- (5) 授業におけるICTの効果的な活用、タブレットを使用した家庭学習の定着を進める。
- (6) 道徳科の時間について校内研修を充実させ、指導方法や評価のあり方について工夫改善を図る。
- (7) 特別支援教育に関する研修を行い「合理的配慮」の考え方やインクルーシブ教育の視点を持ち、校内の支援体制の確立と指導・評価の工夫改善に努める。
- (8) 北九州市作成の資料を積極的に活用し、他人を大切にする心情を育てる人権教育を推進する。特に「いじめは絶対に許さない」「いじめでこまっている児童は全力で守る」という姿勢に立ち、学校をあげて取り組む。

(9) 生徒指導の徹底

・問題事象には組織的に対応する。

・「その日のことはその日に処理をする」を原則とする。対応の遅れが、児童や保護者の信頼を失い、問題事象を長期化させるため、素早く解決に向かって動く。

・危機管理の「さ・し・す・せ・そ」を日常の意識としてもつ。

(10) 校舎内外の環境整備・改善に努めるとともに、栽培活動や清掃活動、委員会活動による掲示物等、子ども自身の手による環境づくりを大切にする。

(11) 信頼され、開かれた学校の推進のため、家庭・地域・教育委員会及び関連機関との連携を一層密にしていく。

(12) 教師による自己評価、保護者、児童、学校評議員等による学校関係者評価を実施し、その結果をよりよい学校づくりに生かし、開かれた学校づくりを推進する。

(13) 児童が白野江小学校を大好きであり、教職員も白野江小学校を誇りに思えるよう、真摯に日々の教育活動に取り組んでいく。地域の学習教材や人材を積極的に授業に活かす。

<綱紀粛正について>

個人情報漏洩、交通事故・違反（飲酒、酒気帯び運転）、セクハラ、体罰、安全管理・指導等については、教育公務員として高い意識をもち、遵守する。

<業務改善について>

・本年度からスタートする2学期制やあゆみ所見記入回数の減少によって生まれた時間を有効活用する。

・必要な行事とそれにかかる時間の配分とその効果を予測し、厳選を進める。

・働き方改革を進めるために、「必要があるのか」「どのようにすれば変わるのか」「明日でよいことは明日へ」等を意識して働き方を問う。

・一人で問題を抱え込まない。